

質問事項		記述式回答
経済再生と両立する財政健全化		
1	以下の二つの取組について、先進的な取組事例や具体的な取組のご提案がございましたら500字以内でご記入ください。 ①公的サービスの質の向上と歳出効率化に向けた、国民・企業・自治体等の自発的な取組を促すようなインセンティブ改革 ②これまで行政が担ってきた公的分野について民間の多様な主体との連携を促進することにより、その創意工夫と民間資金の活用を図る「公的部門の産業化」	今後、地域医療構想の検討が本格化し、地域ごとの医療需要等の策定が行われる一方、地域包括ケアなどにおいて医療と介護の連携が重要となる。その担い手である医療従事者とケアマネージャーなどとの連携が欠かせないが、介護職員が医療行為を行うことができないなど、人的な視点から相互の乗り入れが難しい状況となっている。医療と介護の一体的な運営のためにも将来的にはナース・プラクティショナーの導入などにより看護師等が中心的な役割を分担することや、市町村区域に制約されない(例えば二次医療圏単位の)地域保険等の導入なども検討していいのではないか。
2	2020年度の財政健全化目標を堅持することとしておりますが、その道筋についてご意見がございましたら500字以内でご記入ください。	財政健全化目標の堅持は議論の余地はない。基礎的財政収支の黒字化目標の変更も考えられない。一部では債務残高のGDP比を目標と定めたい意見もあるが、その設定は恣意的になる恐れがある。成長による債務残高GDP比の縮小という見方も金利の上昇を見込めば、成長が果たして目標達成に寄与するかは不確実である。まずは、歳出の見直しが最初であり、それを積算して2020年の基礎的財政収支黒字化に不足する分について、2017年以降の明確な税制改革(消費税率引き上げ)のシナリオを示すべきである。2月の内閣府試算による(ベースケース)の基礎的財政収支の赤字分16.4兆円を前提に、歳出削減が及ばない場合は、その分消費税率を引き上げる覚悟を持つべきである。また、基礎的財政収支の黒字化の後には諸外国同様に財政収支均衡ヘターゲットを引き上げる必要もある。